

IAUD Newsletter vol.13 第1号(2020年4月号)

1. IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞紹介③.....1
2. IAUD 国際デザイン賞 2020 募集開始のご案内..... 8
3. 「国際 UD 会議 予稿集・論文集・講演集 2002～2019 年」セット販売のお知らせ..... 8



持続可能な共生社会の創造を目指して

IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞紹介③

IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞紹介の第3回目は、医療・福祉部門金賞を受賞した MOIO GmbH(ドイツ)の「moio:The smart care patch」と、住宅・建築部門金賞を受賞したバンコク大学(タイ)の「From Innovation Act to Action Learning: Cultivating Inclusive Architects」です。

ロジャー・コールマン審査委員長(英国王立芸術大学院名誉教授)は「moio:The smart care patch」について、「身体的、認知的に著しく制限のある人々を、目立たずに監視できるさりげない介助と診断の解決策。介護の質を損なうことなく、介護者の負担軽減に役立つ」と、評価しました。



IAUD 国際デザイン賞 2019 プレゼンテーション／表彰式の様子(2019年3月、東京・赤坂)

また、「From Innovation Act to Action Learning: Cultivating Inclusive Architects」については、「建築学部の学生と障害のあるユーザーに実際に共同作業をさせる直接体験 UD 訓練プログラム。UD 教育により、障害を持つ研修生の教育と訓練を提供する宿泊施設を共同設計し、建設までダイレクトに結びつけた実践的なアプローチ」と、評価しました。

今号の Newsletter では、「moio:The smart care patch」を MOIO GmbH の Natalie Heckel 氏に、「From Innovation Act to Action Learning: Cultivating Inclusive Architects」をバンコク大学の Rittirong Chutapruttikorn 教授に紹介していただきます。

※IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞結果は[こちら](#)をご覧ください。

IAUD 国際デザイン賞 2019 審査講評は[こちら](#)をご覧ください。

※「IAUD 国際デザイン賞 2019 プレゼンテーション／表彰式」開催報告を掲載した IAUD Newsletter vol.12 第10号(2020年1月号)は[こちら](#)をご覧ください。

※IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞紹介①は[こちら](#)をご覧ください。

IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞紹介②は[こちら](#)をご覧ください。



介護の質を損なうことなく介護者負担を軽減

IAUD 国際デザイン賞 2019 金賞:「moio: The smart care patch」
MOIO GmbH(ドイツ)



介護者の負担を軽減する認知症患者向け監視デバイス「moio」

賢い監視デバイス「moio」

「moio」は介護専門家および在宅ケアの現場における、認知症患者向けの賢い監視デバイスです。

「moio」は平たくなめらかな柔軟性のあるセンサーユニットで、装着した患者の状態を常にチェックします。

特定のニーズを認識したときのみ、ワイヤレスデータ接続により必要な情報を介護責任者に送信することで、いつでも適切な介護が可能になり、介護者や患者の負担を減らすことができます。

介護者をサポートする「moio.care system」

誰かの介護やサポートをすることは、大きな責任が伴います。介護の専門家は時間的な制約やスタッフ不足に悩んでおり、親類を介護している人のニーズは無視されがちです。

「moio.care system」により、介護者はどこにいても常に情報を得ることができます。例えば、装着した患者の転倒を検知して介護者に知らせたり、方向感覚を失った患者があらかじめ指定したゾーンを離れると通知します。

患者が必要な時に、適切な介護を提供できることで、介護者の日常的な作業量を減らし、悩みやストレスの負担を軽くすることができます。

サポートは必要なときに正確に実行され、さらに誰もがより多くの自由とプライバシー、自主性を得られるようになり、医療全体の福祉と質が向上します。

あらゆる環境での介護に適応

「moio.care system」は、以下のように老人ホームとデイサービス(通所介護)の介護者及び在宅介護をしている家族を対象としています。

老人ホーム: 日常的な作業や時間のかかる検索、余計な心配を減らすことができます。

また、電子カルテやナースコール、サービスプラットフォームにも接続することで、さらなる相乗効果が得られます。

デイサービス: 追加サービスとして、家族はデイサービスの介護者と「moio.care system」を使って連絡を取ることができます。そのため、患者の状態やサービス内容によって、デイサービスの時間を延長することもできます。

家族による在宅介護: 「moio.care system」を利用することにより、介護負担を家族間で簡単に分担することができます。

それにより個人負担が軽減され、より長い期間の在宅介護が可能になります。

スマートで軽量の「moio」

「moio.care system」の重要な構成要素は、平らで滑らかで柔軟性のあるセンサーユニット「moio」です。

内部にはスマートセンサーやワイヤレス技術が組み込まれており、いつでもどこでも使用可能です。

「moio」は常にセンサー情報を処理し、解釈します。特定のニーズを認識した場合にのみ、無線データ接続を確立して情報を moio.cloud に送信します。そこから介護者にはスマートフォンやタブレット、パソコンなどのアプリケーション moio.app を介して通知されます。

そのため、患者が本当に必要な時に、いつでも適切な介護を提供することができます。

必要に応じて作成されたデータを電子カルテに送信したり、ナースコールシステムにリンクもでき、既存のシステムにも適切に取り入れることができます。



センサー情報を処理

目立たず快適に装着

「moio」は患者の背中に装着します。肌や肌着に直接装着し、衣服の下に隠れるので、ほとんど外からは目立たず患者が恥ずかしい思いをすることはありません。

必ず背中に装着するため患者には見えませんが、これは認知症の人にとって非常に重要なポイントです。患者は「moio」を異物として認識しないので、除去する衝動が起こらないからです。

装着方法は次頁写真のように3つあります



装着ケース

粘着性のあるケースで「moio」を包みます。快適な着け心地です。



粘着テープ

「moio」裏に付属している薄い粘着テープでも確実に固定できます。



ウエストバンド

「moio」を埋め込んだ柔らかいウエストバンドを巻き付けます。

広範囲なサポート機能

「moio.care system」の各種機能は、主に高齢者や障害者の介護の必要度に対応するものです。

一方、緊急な対応が必要な場合には、自動的に信号を送信します。

また、デジタルドキュメントに自動的に転送する客観的に測定されたデータを作成します。



体の位置変更信号

長時間寝ている患者の体の位置を一定時間毎に動かすよう通知します。



仮想ゾーン

方向感覚を失った患者がジオフェンス（仮想的な地理的境界線）から離れているか通知します。



起床信号

患者の起床動作が検出されたとき通知します。



現在位置

患者の現在位置を正確に認識します。



落下信号

患者の落下を検知すると瞬時に通知します。



装着コントロール

患者から「moio」が外れたり紛失した場合すぐに通知します。



モビリティ記録

患者が毎日横たわったり、座ったり、歩いたりしている時間を記録します。



充電コントロール

「moio」のバッテリー残量が少なくなったとき通知します。



UD 教育の模範的プログラム

IAUD 国際デザイン賞 2019 金賞:「From Innovation Act to Action Learning: Cultivating Inclusive Architects」
バンコク大学(タイ)



「UD ホームプロジェクト」により 2018 年に建設された障害のある研修生のための住居

UD をより理解できる「UD ホームプロジェクト」

バンコク大学建築学部では、実際のプロジェクトによるアクティブ・ラーニングを通して、学生が UD の原則をより理解できる UD 教育プログラム「UD ホームプロジェクト」を実施しています。

建築学部の学生が障害のある研修生にとって利用しやすい住居を共同でデザインし建設することで、研修生が自分たちの能力を活かして地域生活と就労を進め、自立できるよう支援しています。

この活動は、国連が 2030 年までの達成目標とする SDGs(持続可能な開発目標)が掲げる 17 の目標のうち、「4: 質の高い教育をみんなに」「8: 働きがいも経済成長も」「11: 住み続けられる街づくりを」に呼応しています。

障害者の自給自立を促進

タイでは障害者のうち 95%以上がバンコク以外の地方に在住しており、障害者が地元で働きながら生活できる仕組みが必要です。

タイ東部ラヨーン県にある「ラヨーン障害者学習センター」では、障害者の自給自立を促進するため、職業訓練や生活改善のための研修を行っています。

地域に住む多くの障害者が農業訓練を受ける必要があるのですが、このセンターには障害者に適した宿泊施設がありませんでした。

この問題を解決するため、バンコク大学建築学部はこのセンターと協力して農業訓練をする

障害者のある研修生の住居を建設する「UD ホームプロジェクト」を立ち上げました。

このプロジェクトの目的は、社会サービスと建築・デザインの学習を統合することです。学生が UD を積極的に学んでいく中で、建築や法律、障害など様々な分野での知識を得ながら、その過程で UD をより深く理解できるようになるのです。

「障害者エンパワーメント法」を活用

タイでは 2011 年に施行された「障害者エンパワーメント法」により、障害者雇用は義務となりました。同法 35 条によると、「雇用主は少なくとも 1 人の障害者の雇用する、もしくは障害者を支援する設備やサービスなどを提供すること」が義務付けられています。

そのため、バンコク大学では毎年約 400 万円の予算を何らかの障害者支援活動に提供しなければなりません。

障害者が利用しやすい施設を建設したり、障害者と共同で作業するには巨額の資金が必要ですが、「UD ホームプロジェクト」では大学のこの予算を利用し、建築学部の学生が障害者のための施設を実際にデザインし建設する機会を提供しています。



2017 年に完成したプロジェクト初の住居

住居 3 棟と店舗 5 軒を建設

実際に「ラヨン障害者学習センター」に訪問し調査をすると、研修生のための住居だけでなく、トレーニングセンターや農作物を販売する店舗、農作物を加工する工場も必要としていることがわかりました。

そこで、研修生が収入を得て自立した生活ができるよう、住居を建設するとともに、マスタープラン作成にも関わることになりました。

学生は UD の考え方を徹底させ、様々な課題を与えられることで、適切なデザインのあり方をこのプロジェクトを通じて学ぶことができます。

学生が作成した住居デザインを審査する際には、実際に住む障害者も審査員として加わりました。建築作業は地元の工務店にお願いし、学生は特定の作業過程でサポートする役割を担いました。講師は建設状況をチェックし、計画通りに進んでいるかを確認しました。

そして、学生も実際の建設現場で学ぶ機会を持ち、またこれまで障害者向け住居を建てたことがなかった工務店も UD について学ぶことができました。

2017 年のスタート以来、これまで障害のある研修生の住居を 3 棟、2019 年には農作物を販売する店舗 5 軒も建設しました。

これにより、研修生は農業訓練プログラムに参加している間、生活し学び働くことができるようになりました。



「UD ホームプロジェクト」
学生と障害者による会合の様子



2019 年に完成した店舗

効果的な UD 学習プロセス

このプロジェクトでは、学生が障害者と直接関わることで建築と UD をより深く理解し、参加型デザインの概念も作業の各段階で学ぶことができます。

プロジェクトを進めるためには、様々な専門家の協力も必要です。大学の講師とは別に、障害者や政府関係者、請負業者など多様な分野の関係者が各段階で評価します。

学生はユーザの要求や現実の課題から学び、実際に経験しながら UD の学習を達成できるのです。

SDGs「8:働きがいも経済成長も」に呼应し、これらの建築物は多くの障害者への雇用機会増加に貢献しています。同時に、学生も障害者と共同で建築とデザインに取り組むことで、UD と障害者の二ーズについてより理解を深めることができます。

非常に画期的で柔軟性のある「障害者エンパワーメント法」により、UD に関する効果的な学習プロセスを提供しています。建築学部の学生は障害者との共同作業を通して、障害に対する認識を高め、その成果物である建築物は障害者に直接、恩恵を与えています。



「UD ホームプロジェクト」打合せの様子

自立した持続可能なセンターに

「ラヨーン障害者学習センター」を自立した持続可能な組織にするためには、他の支援も必要です。

トレーニングセンターや食品加工場などの施設のほか、研修プログラムには加工品生産や観光なども盛り込む必要があるでしょう。

これらは、他学部の学生にも実際のプロジェクトによるアクティブ・ラーニングを通じて、障害の問題に取り組む良い機会となるでしょう。

また、様々な分野からの関係者と知識を交換することは、インクルーシヴデザインにもつながります。

バンコク大学では、今後もこのセンター自立した持続可能な組織になるよう支援していきます。



2019年に完成した住居



UD 活動の実践や提案を国際的に表彰

「IAUD 国際デザイン賞 2020」募集開始のご案内

IAUD は、一人でも多くの方が快適で暮らしやすい UD 社会の実現に向けて特に顕著な活動の実践や提案を行っている団体・個人を表彰する「IAUD 国際デザイン賞 2020」の募集を開始しました。

審査委員会が最も優れていると判断したものに「大賞」を授与するほか、部門別に「金賞」「銀賞」「銅賞」を予定しています。

第 1 次審査応募締め切りは 7 月 15 日(水)です。皆様の応募をお待ちしております。

「IAUD 国際デザイン賞 2020」の詳細は[こちら](#)をご覧ください



前回の表彰式の様子
(東京・赤坂、2019 年 12 月)



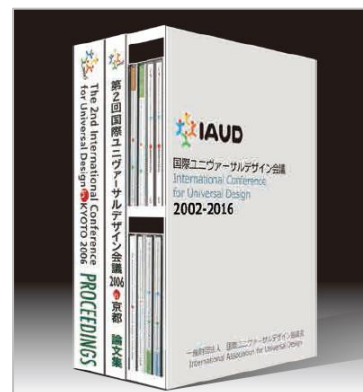
国際 UD 会議の軌跡から UD を学ぶ

「国際 UD 会議 予稿集・論文集・講演集 2002～2019 年」数量限定販売

国際 UD 会議開催 15 周年を記念して販売された 2002 年から 2016 年まで 6 回開催された国際会議の予稿集・論文集・講演集セットに、2019 年にバンコクで開催された国際会議の論文集と報告書を追加して再度販売します。

ぜひこの機会にお買い求めいただき、学際的・業際的な広がりを見せる UD の国際的知見に触れてください。

内容の詳細やお申込み方法は[こちら](#)をご覧ください。



国際 UD 会議 予稿集・論文集・講演集 2002～2019 年

※新型コロナウイルス感染対策のため、政府より集会や不要不急の外出の自粛が要請されていることを受け、IAUD では研究部会等の行事開催を一部見合わせております。

次号は 5 月上旬発行予定

特集:IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞紹介④ほか

一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会
事務局: 〒225-0003 横浜市青葉区新石川 2-13-18-110
電話: 045-901-8420 FAX: 045-901-8417 e-mail: info@iaud.net